



がんばれ！田尻中3年生！

2月に入りました。3年生の皆さんは、いよいよ受験本番です。先日、和歌山県で私立高校の入学試験が実施されました。週明けの月曜日からは、大阪府の私立高校で、入学試験が実施されます。

田尻中3年生の皆さん、自分の力を信じて、強い気持ちで試験に臨んでください！田尻中学校の全ての在校生と教職員の皆で応援しています。受験直前の過ごし方について書きましたので、参考にしてください。

- 【勉強編】・公式や英単語などの簡単な暗記ものを復習する
・参考書やわからない問題や間違えた箇所をまとめたノートを見返す
- 【準備編】・受験前夜はとにかく早く寝る ・当日の行動を頭の中でシミュレーションしておく
- 【心構え編】・普段どおりに過ごす

過去の震災から学ぶ！（2年生）

先月の1月17日は、阪神淡路大震災から30年目を迎えた日でした。私は、地震が起きたこの日、熊取町立西小学校で、高台にある校舎の3階から、担任をしていた6年生の子どもたちと神戸の街が燃えているのを自分

の目で見たのを忘れません。当時の子どもたちは現在42歳になりました。年月とともに記憶が薄れていくので、伝えることの大切さを強く感じています。



阪神淡路大震災から30年目を迎える前日に、横井教頭先生が、2年生の道徳を担当しました。「語りかける目」という資料で、この震災で、どんな悲惨なできごとがあったのかを生徒に語ってくれました。当時、医者の方で生死の判断を一緒に見届ける役目をして一人の警察官の手記が、道徳の時間の資料として使われました。手記の内容を少し紹介します。

この大地震で、倒れた家の下敷きになった一人の少女（小学生）が、自力で這い出した後、一緒に寝ていたお母さんが家の中に取り残されていることに気づき、必死でお母さんを助けようと周りの大人に助けを求めましたが、その声は誰にも届かず、一人で助け出そうと悲しい決断をしました。頑張っ、お母さんの手に届くところまで行きましたが、それ以上はどうすることも出来ず、最後は、「もういいから逃げなさい」と言ってくれたお母さんが、家と共に焼かれていくのをただ呆然と見ているしかありませんでした。その後、少女は、焼け落ちた家から、自分でお母さんの遺骨を拾い集め、焦げた鍋に入れて、その警察官に見せたというお話です。

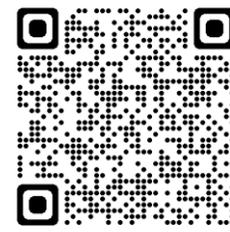
その時、少女の目が何を伝えようとしていたのでしょうか、、、「語りかける目」という題名がついたこの資料は、震災のことが忘れ去られていくことに憂いたその警察官が、12年後に手記として世に出したものです。詳しい資料を読みみたい方は、QRコードを載せていますので、読んでみてください。

- ・大切な人を失うことは本当に恐ろしい。南海トラフ地震が近づいてきているからこそ、今日の授業は身近に感じる事ができた。2年
- ・当たり前は当たり前ではないので、一日一日を大切にしたい。幸せとは、今の状態が続くことなのかもしれない。南海トラフ地震がいつ来てもいけるように、非常用バックを用意して、一人でも多くの方が助かることを願いたい。2年
- ・今自分にできるのは人を大切にすること。友達や家族のみんなへの言い方や接し方に気を付け、感謝や愛情も恥ずかしがらずにちゃんと伝えたいと思いました。2年

(授業後の感想より)



1月12日(日)に田尻中運動場で実施された消防出初式の様子



【語りかける目 警察官手記】

ミニらいとモルックに挑戦（1年生）

縁あって、一般社団法人泉州ミニらいとモルック倶楽部の辻下会長様、下澤副会長様とお話する機会があり、全ての方が参加できるスポーツについて紹介していただきました。この競技は、障害の有無に関係なく、老若男女と一緒に参加できるスポーツで、年齢、性別、スポーツ経験、障害の有無などを越えたところで、みんなで楽しめる競技です。共生教育の取り組みとして、1年生が挑戦しました。



3回シリーズで泉州ミニらいとモルック倶楽部の辻下様にご指導いただきました。1回目は、ミニらいとモルックという競技についてのお話、2回目は、各クラスで体験会、3回目は、2月7日(金)5・6時間目に、田尻中の体育館で「第1回ミニらいとモルック大会 in 田尻町立中学校(1年生)」を開催しました。大いに盛り上がりました！



(校長 池本 勝利)

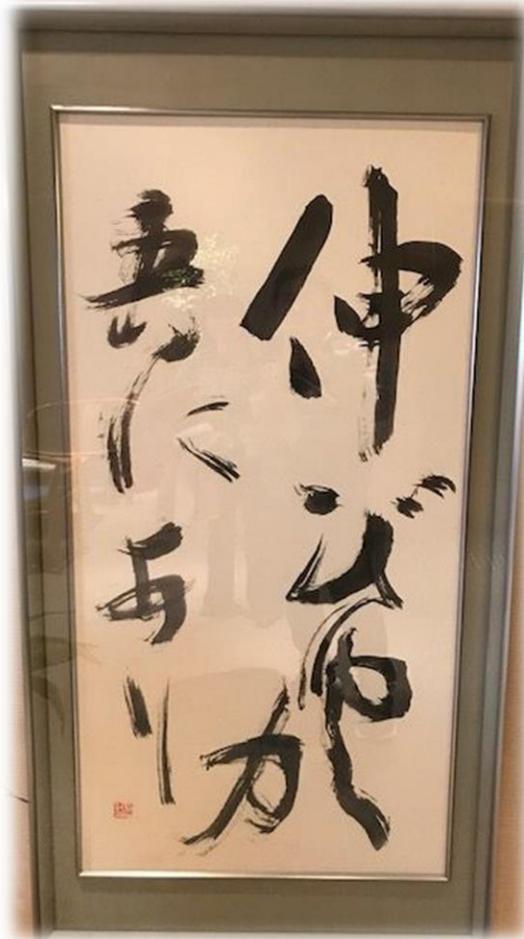
今後の予定

2/10(月)	【3年生】府内 私立高校入試〔～11(火)〕
2/19(水)	【1・2年生】テスト1週間前
2/20(木)	【3年生】公立特別選抜〔～21(金)〕
2/26(水)	【1・2年生】学年末テスト〔～28(金)〕 【3年生】学力診断テスト〔～28(金)〕
3/12(水)	【3年生】公立一般選抜
3/14(金)	【3年生】卒業証書授与式
3/18(火)	【1・2年生】期末三者懇談会〔～21(金)〕
3/24(月)	【1・2年生】修了式

伸びゆく力 吾にあり

先日、書道展を見学しました。岸和田市出身の書道家・奥 宣憲（おくせんけん）氏が「日本のこころと美」というテーマで定期的に開催しています。奥氏は、日本の歴史上の人物が残した言葉や文学作品から、数々の名言をご自身の筆で文字に起こします。当日は、選ばれた数々の作品について一つ一つ丁寧に解説していただき、作品とともに選んだ言葉の意味やそこに込められた背景を味わうことが出来ました。今回は、その中からいくつかの作品の紹介を通して考えたいと思います。

伸びゆく力 ^{われ}吾にあり



まず、展示会場の入り口に掲げられていたのがこの作品。この言葉は、熊本にある小学校の校歌の一部です。「人間は誰もが成長する力を持っており、それを活かすかどうかは自分自身にかかっている」という意味です。児童各自に成長への決意を促す歌詞です。

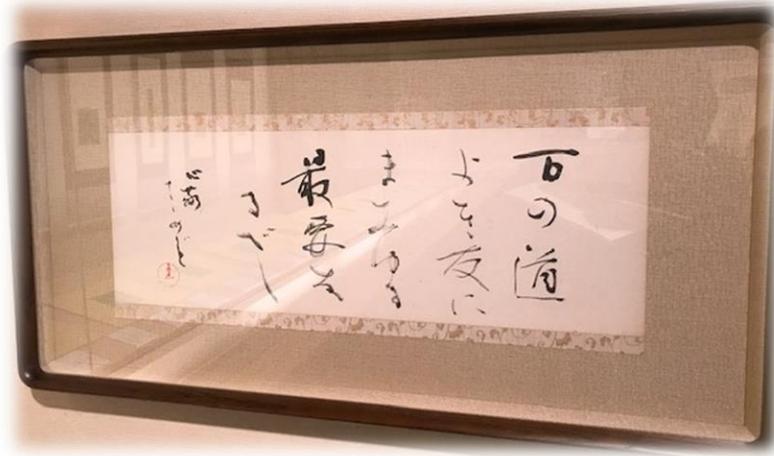
2016年の熊本地震の翌年、新聞で熊本城下にある白川小学校の校歌が紹介されました。「『伸びゆく力 吾にあり 銀杏城の天守閣 堅き礎あればこそ』。…子供は成長するための礎を学校で築き、大人になる。城の修復には何十年という歳月を要するだろうが、修復までの日々を見届けるのも、これからの復興を担っていく彼らだ」（2017年3月20日付 毎日新聞 余禄）。という記事から子供たちの無限の力が発揮されることを願って揮毫されたそうです。

新年を迎え、誰もが「今年こそは…!」と決意をするこの季節、その可能性とエネルギーを誰もが持ち合わせていることに改めて気づかせてくれた作品です。作品の中では「力」の文字が一番下に書かれ、成長の土台となる「石垣」を力強く表現しているのがとても印象的でした。

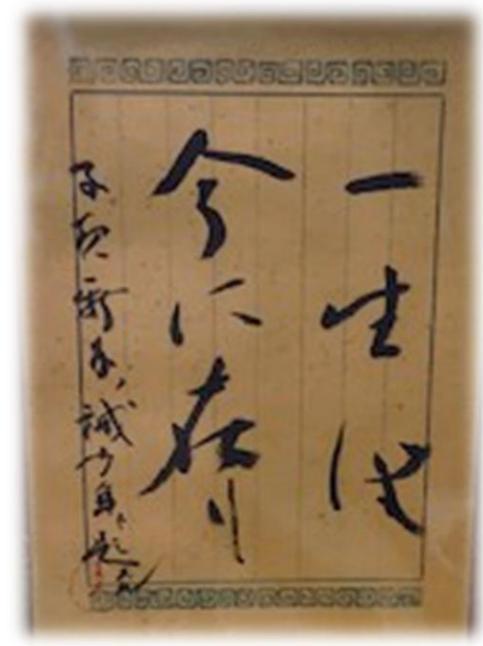
万の道 ^{よろず}よき友にまみゆる ^{さいよう}最要なるべし

「どんな道に進むにせよ、すばらしい友と出会うことが、何よりも大切である」という意味です。これは室町時代の歌人・連歌師であった心敬（しんけい）の『ささめごと』という連歌について論じた書物にあります。

かつて小学校の教科書にも掲載されていたそうです。私たちにとってすばらしい友の存在は、生きる上での頼りになる存在であり、時に互いを認め合い、時に苦言を呈し、本気でかかわってくれる存在。奥氏が、「自分自身が目標に向かって努力を重ねていく過程があってこそ、よき友にも出会えるのであり、油断や妥協ばかりだとそのような出会いは難しい」と語っていたのが印象的でした。



一生は今にあり



「一生の人生の中で大切なのは、今のこの瞬間である」。俳人・正岡子規の言葉です。明治時代後半、病床に伏せることの多かった子規は、自分の中からあふれてくる思いを様々な形で残していきます。残り少ない自分の人生を考えると、この一瞬一瞬がとても大切で、過去には戻れない、未来があるのもこの今を生きているからだ、様々なことを思いめぐらせたことがうかがえます。

奥氏は作品一つひとつに受けた感銘をととても熱く、生き生きと語って下さいました。作品を揮毫する際に大切にされたことなどをうかがっていくうちに、書が絵画にも見えてくるのがとても不思議でした。一字一字が龍や鳥、子どもなどに姿を変えていくのです。字が生きているのです。

日々の目まぐるしい生活の中で、時に立ち止まって偉人の言葉に耳を傾ける。それを奥氏の書を通して改めて学ぶことが出来ました。

私は今の生徒たちや先生方、そして家族との生活に大きなヒントを得ることが出来ました。「こんな生き方をしたい…。」人はそれぞれに希望を持ち、それに向かっていきます。しかし、うまくいかないことも多いのが世の常です。そんな時、ふと立ち返ってみたい言葉に出会うことが出来ました。
(教頭 横井武志)